

7月1日に夏の「ツルの自然体験学習会」を開催しました。

参加した東中筋小学校、中筋小学校、東中筋中学校の子どもたちは、鳥類の専門家である澤田佳長先生から、四万十市での40年にわたるツル保護活動のあゆみや昨年度のツルの渡来状況などについて学びました。

澤田先生は、のんびりとえさをついばむツルの写真だけでなく、脚に釣り糸と針がひっかかったショッキングな写真や、警戒心の強いツルのすぐ傍を犬の散歩で通る人の写真なども見せながら、我々人間の何気ない行為によってツルが越冬しづらい状況が生まれていることを強調されました。そして、「中筋川流域には、古き良きふるさとの自然が残っています。このことを誇りに思っ、ツルが安心して越冬できる地域にしていきましょう」と呼びかけました。

学習会の様子



中村にツルが来ていることは国際的にも有名なと語る澤田先生



この日も多くのメディアが取材に来てくれました

四万十つるの里づくりの会

人と自然の共生する「ツルの里」をめざして

四万十 つるだより

Vol.19 ●発行日／平成25年11月1日 ●発行／四万十つるの里づくりの会
http://www.shimanto-tsuru.com

※「四万十つるだより」内のツル類の写真の一部は、澤田佳長氏（野生生物環境研究センター所長）よりご提供いただいております。

今年もツルが渡来する時期になりました

四万十市には、かなり古くからツルが渡来していたといわれています。昭和47年からは保護活動が行われ、その活動は「四万十つるの里づくりの会」の取り組みにつながっています。

四万十市で確認されるのは主にナベヅルです。彼らは毎年10月末頃に渡来し、田んぼで二番穂(刈り取りの終わった稲株から出てきた稲穂)をついばんだり、四万十川で水浴びしたりと、私たちの身近な場所で優美な姿を見せてくれます。

しかし、最近、写真を撮ろうと近づきすぎたり、大きな音を立てたりしたために、ツルが驚いて飛び立つことが多くなっています。

遠くシベリアから渡ってくるツルをそっと見守り、四万十市をツルと人が共生できる街にしていきましょう。



ツルは安全な場所だとわかると、警戒心を解いて、のんびりと過ごします



屋形船からツルが見られることも! ツルは四万十の観光にも一役買ってくれています

※ツルの写真いずれも澤田佳長氏提供



● むやみに近づかない。追いかけない。

犬の散歩などで100mくらい近づいただけで、ツルは飛び去ります。特に、写真・ビデオ撮影のために近づくことは避けてください。駐車等により周辺の方の生活にも悪影響が出ます。

● 大きな音を出さない。

大声をあげたり、車のドアをバタンと閉めたりすると、ツルは驚いて逃げてしまいます。

● インターネット等で安易に情報を広めない。

思いがけない人数が集まり、周辺の方の迷惑になったり、ツルが驚いて逃げるケースが増えることがあります。

● えさを与えない。

専門的な知識なく安易にえさを与えると、栄養が偏ったり、人を恐れなくなって、思わぬ事故につながりかねません。



中山地区の えさ場でモミ撒きを実施

協働連携

7月2日、国土交通省が「四万十川自然再生事業」で整備した中山地区の湿地でモミ撒きを行いました。モミ撒きは毎年、「ツルの自然体験学習会」の際に子どもたちと一緒に行っていましたが、学習会の日にはえさ場がひどくぬかるんでいて実施できなかったため、今回は当会会員と有志で行いました。

撒いたモミは順調に生育し、今秋、見事に実ってツルたちのえさになりました!

湿地の中にずぶずぶ入って一生懸命モミ撒き



いい汗、流しました!



ツルを見かけたら お願い



四万十川および中筋川流域で見られるツルは野鳥です。非常に用心深く常にあたりを警戒しています。特に光や物音に敏感で、一度飛び立つと遠くに飛び去ってしまい1羽も見られなくなります。自然のままのツルの生活をおびやかさないように、静かに遠くから見守って下さい。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel: 0880-34-4333 / fax: 0880-34-1451
mail: naka10@cciweb.or.jp